

国高旋風



国立高校野球部の4月（マネージャーより）「理想的なチームのあり方とは」

新年度を迎え、国立高校野球部にも新たな仲間が加わりました。
そこで、今回のマネージャー新聞では、新しい部員が加わりチームの雰囲気が変わる今だからこそ肝に銘じておきたい言葉を紹介し、組織の理想的なあり方を考えてみたいと思います。

論語に「君、臣を使うに礼を以ってし、臣、君にうるに思を以ってす」という言葉があります。この言葉の意味は「君主は礼儀を以って家臣を使い、家臣は忠義を以って君主に仕えるべき」つまり、「目上の者は、目下の者に対して配慮し、目下の者もまた目上の者の配慮に感謝して応じなければいけない」というものです。

部活動だけでなく、様々な組織において上下関係は存在します。そして、そのあり方こそが各組織の産み出す結果を左右します。相手に対して敬意を持たずに接するようなことがあれば協力関係は生まれず、それぞれが持っている力は発揮できません。

国立高校野球部でも、2・3年生は、1年生からも学べるスキルがあるのではないかと、という「礼」に沿った心構えを持ち、1年生は、先輩方の言うことに考え無しに従うのではなく、改善できると感じたり疑問に思ったりしたことがあれば、チーム力向上のために積極的に確認・協力しようとする「忠」の精神を忘れずに、ともに甲子園という目標に向かっていってほしいと思います。